

油縄子(ゆなご) 地名の由来と変遷

■ 地名の由来 ■

「油縄子」は、一般の方にとっては難読地名かもしれません。「ゆなご」と読みます。江戸時代には、「ゆなわご」と読んでいたようです。「由奈波呉」（ゆなはご）と表記します。《「新編常陸国誌」村落編油縄子の条》

ちなみに、「縄」が正字で、「繩」は俗字で常用漢字です。また、「ゆなはご」も現代表記では、「ゆなわご」です。

この地名の由来についてはよくわかっていないのが現状です。街道沿いに湯屋があり、飯盛女や湯女を抱えて営業しており、そのため、湯女子（ゆなご）の名が生まれ、後に油縄子の文字を当てたという説、検地の際、縄が余ったからという説などがありますがいずれも信憑性に欠けるようです。

「ユ」・「ナゴ」という語源から推察すると、「ユ」は現代語の「湯」の意味だけでなく、古くは水、井と同じく、川・用水の意味もあったと思われます。したがって「ユ」は水・川のあるところという意味です。「ナゴ」はナギ（薙ぐ）と同じく、崖または焼き畑を示す用語とされます。

したがって、油縄子（ユナゴ）とは、「川崖」・・・「川によって浸食された崖」「川沿いの崖」と解釈されます。この川崖は、油縄子学区が海岸段丘がよく発達しているので、その段丘の崖に起因する段丘面を刻んで流れている鮎川の浸食谷に由来しているといえます。

また、「ナゴ」は地形上、小平地、平坦地を指す言葉で、油縄子学区は平坦な土地であることと関係していると思われます。

《「地名を訪ねて」「油縄子小学校創立五十周年記念 ゆなご」》

■ 地名の変遷 ■

1965年（昭和40年）～1967年（昭和42年）の住居表示の変更により、地名としての油縄子の町名は残念ながら消滅してしまいました。

現在、油縄子の名は、油縄子学区コミュニティ推進会、油縄子交流センター、油縄子小学校、ゆなご保育園、油縄子十文字（交差点名：信号の表記は「油縄子」）、油縄子小学校前・油縄子仲町・油縄子下町（バス停名）、油縄子歩道橋、油縄子会館、他に商店や事業所名、アパート名等にわずかにその名をとどめるのみとなっていますが、地元の方々には今でも親しまれている名前です。

歴史をたどると、油縄子の地名が登場するのは江戸時代とされていますが、文永の検地（太閤検地）関連の史料に「**久慈郡 密月郷 油縄子**」の記載があり、中世の頃には既に村名として存在しています。《多賀郡史》その後、江戸時代に入り寛永の検地（1635年頃）の際、検地奉行の担当村名に「**油縄子村**」の名が登場します。《新修日立市史上巻》江戸時代（諸藩分領図：天保弘化の頃）には、「**水戸領 多賀郡 油縄子村**」、明治初期（藩縣二治分簡図）には、「**水戸藩 多賀郡 油縄子村**」との記載があります。《多賀郡史》

1878年（明治11年）の町村改編により、油縄子村は、諏訪村、成沢村と合併して、「**多賀郡 油縄子村**」となり、次いで1889年（明治22年）の町村改編により、村名が、油縄子村から「**多賀郡 鮎川村**」となり、**油縄子という村名が消滅**しました。（その後町名として、大字名として「油縄子町」、地区名として「油縄子上町」「油縄子仲町」「油縄子下町」が残りました。）

その後、1939年（昭和14年）鮎川村は河原子村、国分村と合併し、「**多賀郡 多賀町**」となり、1955年（昭和30年）多賀町は「**日立市**」となり、1965年（昭和40年）～1967年（昭和42年）の住居表示の変更を経て現在に至っています。

ここまでは、旧油縄子村を見てきましたが、**油縄子学区**は、江戸時代からの旧村名、**油縄子村**全域、**諏訪村**の一部、**下孫村**の一部、**河原子村**の一部で構成されています。

前述の文永の検地（太閤検地）関連の史料には、「**久慈郡 密月郷 油縄子**」とともに「**諏訪、下孫、河原子**」の記載があります。江戸時代（諸藩分領図：天保弘化の頃）には、「**水戸領 多賀郡 油縄子村**」とともに水戸領として「**下孫、河原子**」、「**助川領 諏訪村**」との記載があります。明治初期（藩縣二治分簡図）には、「**水戸藩 多賀郡 油縄子村**」とともに「**諏訪村、下孫村、河原子村**」と記載されています。

1889年（明治22年）の町村改編では、油縄子村は諏訪村、成沢村と合併し「**多賀郡 鮎川村**」、下孫村は、大久保村、金沢村と合併し「**多賀郡 国分村**」、河原子村はそのまま一村で「**多賀郡 河原子町**」となりました。

その後は前述の通り、1939年（昭和14年）鮎川村は河原子町、国分村と合併し、「**多賀郡 多賀町**」となり、1955年（昭和30年）「**日立市**」となりました。

1965年（昭和40年）の住居表示の変更で、諏訪町から分離して桜川以北の**桜川町3丁目、多賀町5丁目**が、下孫町から**多賀町4丁目**ができました。翌1966年（昭和41年）には、油縄子町と多賀町、諏訪町の一部が**鮎川町1丁目から5丁目**となりました。1967年（昭和42年）には、河原子町、多賀町、油縄子町の一部が**国分町**なり、1968年（昭和44年）には、**鮎川町6丁目**ができ、現在に至っています。